

2023 AC

The 2nd Celebrate Hanukkah

原語で味わう創世記第2章

12/24~31

No.1 24日(夜)

1. 連結された異なる二つの創造

【新改訳2017】創世記 2章4 節
これは、天と地が創造されたときの経緯である。

神である主が、地と天を造られたときのこと。

ヴェシャーマーイム	エレツ	エローヒーム	アドナイ	アソート	ベヨーム
וְשָׁמַיִם	וְאֶרֶץ	יְהוָה אֱלֹהִים		עָשְׂתָה	בַּיּוֹם
天	と 地	神である 主なる神	主	造られた 造ろうとしたとき	日に

1章2節～2章4節前半と2章4節後半以降の 相違点、共通点

1. 相違点

- ① 「創造した」「造った」⇔「造った」「形造る」(用語が異なる)
- ② 「天と地」⇔「地と天」(順序が異なる)
- ③ 「神」⇔「神である主」(一般名詞と固有名詞の違い)

2. 共通点

- ① 「人」(אָדָם)が中心・・・「最初のアダム」/「最後のアダム」
- ② 人は「地を支配する」=人は「地を耕し、守る」(王なる祭司的務め)
- ③ 「光と闇」「昼と夜」を「分ける」=「いのち」と「死」

2. 神の名前 ①

神である主

エローヒーム アドナイ(※)

יהוה אלהים

創2章4,5,7,8,9,15,16,18,19,21,22(11回)、創3章1,8,9,13,14,21,22,23(8回)、
他24:3。出9:30、申6:16,17,20,24。 / モーセ五書25回 / 旧約全体44回

※ユダヤ人は神聖四文字 יהוה を「アドナイ」(יהוה)と読みます。

これは神の**固有名詞**です。

● יהוה だけなら、約5500回(旧約)使われています。 יהוה は「主」と訳され、新改訳は「主」を太字で表記しますが、新共同訳は普通の表記です。

● 新約で「主」は「キュリオス」(κύριος)と訳されます。Hebrew訳では旧約引用の場合 יהוה ですが、他は、יהוה および יהוה と表記します。

2. 神の名前 ②

イエシュアは復活・昇天・着座した後、正式に神が、主ともキリストとも呼ばれます(使徒2:36)。

【新改訳2017】ピリピ人への手紙 2章11節
すべての舌が「イエス・キリストは主(※)です」と告白して、
父なる神に栄光を帰するためです。

(※)ただし、Hebrew訳では「主」を「アードーン」(יְהוָה)、
あるいは、冠詞付きの「ハーアードーン」(יְהוָהּ)と訳します。

יֵשׁוּעַ הַמָּשִׁיחַ הוּא יְהוָהּ

2. 神の名前 ③

● 神の固有名詞である「主」ですが、「主の名をみだりに口にしてはならない」ということから、ユダヤ人たちは神聖四文字 **יהוה** を「私の主人」という意味の「アドナーイ」(אֲדֹנָי)と呼んできました。いずれも四つの子音から成っています。ヘブル語原典には **יהוה** と母音が記されていますが、何と発音するのかが分からないのです。

● 日本語では「ヤーウェ」(YHWH)とか「エホバ」と訳されてきましたが、ユダヤ人と同様に、アシュレークラスでは母音記号なしの **יהוה** を「アドナイ」と呼んでいます。

2. 神の名前 ④

●神ご自身が「わたしは主である」（「アニー・アドナイ」
אֲנִי יְהוָה）と自己啓示されたのは、モーセに対してです。

①【新改訳2017】出エジプト記 6章2節

神はモーセに語り、彼に仰せられた。「わたしは主である。 . .

⇒ 自己宣言

②【新改訳2017】出エジプト記 6章6節

それゆえ、イスラエルの子らに言え。『わたしは主である。わたしは
あなたがたをエジプトの苦役から導き出す。あなたがたを重い労働から
救い出し、伸ばされた腕と大いなるさばきによって贖う。

⇒ エジプトの苦しみから導き出し、救い出し、贖う主

2. 神の名前 ⑤

③ 【新改訳2017】 出エジプト記 6章8節

わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地にあなたがたを連れて行き、そこをあなたがたの所有地として与える。わたしは主である。』」

⇒ 約束の地に連れて行き、土地を所有の地として与える主

④ 【新改訳2017】 出エジプト記 6章29節

主はモーセに告げられた。「わたしは主である。わたしがあなたに語ることをみな、エジプトの王ファラオに告げよ。」

⇒ エジプトの王と対決される主

2. 神の名前 ⑥

⑤ 【新改訳2017】 出エジプト記 12章12節

その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人から家畜に至るまで、エジプトの地のすべての長子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下す。わたしは主である。

⇒ エジプトにさばきを下される主

●主とはどのような方でしょうか。①～⑤をまとめるなら、主は約束を誠実に守られる方であり、神の民をエジプトから贖い出し、約束の地を嗣業(ゆずり)として与える方です。そして、神の敵に対してさばきを下される方だということが分かります。



(1) 十字架による贖いの啓示
十字架につけられたイエシュアの

手(י)と、釘(י)を見よ(ה)

(2) 再臨の啓示

キリストの空中携拳(י)と

地上再臨(י)を見よ(ה)



3. 地の状況 ①

●5節では、神である主が地と天を造られたときの「地」の状況が記されています。

【新改訳2017】創世記2章5節

地にはまだ、野の灌木もなく、野の草も生えていなかった。
神である主が、地の上に雨を降らせていなかったからである。
また、大地を耕す人もまだいなかった。

●「地」が造られたとき、何もなかった、何もなされていなかった。

①「まだなかった」(「**テレム**・イイエ」**הָיָה לֹא**)

②「まだ生えていなかった」(「**テレム**・イツマーハ」**לֹא יָצָא**)

③「雨を降らせていなかった」(「**ロー**・ヒムティール」**לֹא הִטֵּיֵל**)

④「(人が)いなかった」(「**アイン**」**אֵין**) ⇒「まだ」を意味する語彙はありません。

三つの否定辞

לֹא/אֵין/לֹא

3. 地の状況 ②

כָּל | שִׁיחַ הַשָּׂדֶה טָרַם יְהִיָּה בְּאֶרֶץ כָּל־עֵשֶׂב הַשָּׂדֶה טָרַם יִצְמַח
生えていなかった まだ 野の 草も すべて 地には なかった まだ 野の 灌木も すべて
כִּי לֹא הִמְטִיר יְהוָה אֱלֹהִים עַל־הָאָרֶץ אָדָם אֵין לְעַבֵּד אֶת־הָאֲדָמָה׃
大地 を 耕す いなかった 人が 地の上に 神である主が 雨を降らせていなかったから

「ホール」(כָּל)も「ホル」(כָּל)も、否定辞を伴うことで、
「一切なかった」ことを強調しています。

●野の灌木、野の草、地に降る雨は、大地を耕す「人」と大いに関係があることが理解できます。それがまだ成り立っていない状況が、理由を表す接続詞(כִּי)と否定を表す三つの副詞で強調されています。

3. 地の状況 ③

● 「野の灌木」(הַצִּיָּה הַיָּבֵשׁ)、 「野の草」(הַצִּיָּה הַיָּבֵשׁ עֵשֶׂב)、 地の上に「降らせる雨」(הַיָּבֵשׁ הַמֵּטֵר)とは何を指し示しているのでしょうか。野は「サーデ」(הַצִּיָּה)、 「地」は「ハーアーレツ」(הָאָרֶץ)、 「大地」は「ハーアダーマー」(הַמִּדְבָּר)・・・これらは、みな密接な関係にあります。また、地にある大地を耕すために、野の草木と雨が「人」にとって必要であることが示されています。

(1) 「**灌木**」(低木) 「スィーアツハ」(הַצִּיָּה) は荒野に生える木(=アカシヤ)のこと。神とのかかわりに不可欠なものであり、①幕屋の建材 ②祭壇に必要な薪(たきぎ)に使われます。またいのちの木、善悪の知識の木のように、「木」(「エーツ」עֵץ)は「キリスト」、および人が食べる「神のことば」を意味します。ぶどうの木、いちじくの木、オリーブの木は、**キリストを表す象徴**(士師 9:8,10,12)であり、同時に、歴史におけるイスラエルの状態を表すたとえです。

付記 「スィーアツハ」 (חִשֵּׁב)

● 「スィーアツハ」 (חִשֵּׁב) は、動詞では「じっくりと考える、黙想にふける、静かに深く考える」という意味です。詩篇においては、人が神のなさった奇しいわざ、神の戒めやみことばについて深く考え、思い巡らすことを意味します。詩篇77篇12節では「あなたのみわざを **静かに考えます (חִשֵּׁב)**」と訳しています。同じく詩篇77篇の3節と6節にも。

3節 「私は神を思い起こして嘆き、**思いを潜めて(חִשֵּׁב)**、
私の霊は衰え果てる。」 (新改訳第3版)

6節 「わたしの霊は**悩んで(חִשֵּׁב)**問いかけます」 (新共同訳)

● イエシュアは「ナタナエル」のことを「まことのイスラエル人」と呼び、彼が「いちじくの木の下にいた」ことを語っています(ヨハネ1:47~48)。

3. 地の状況 ④

(2) 草を意味する「エーセヴ」(עֵשֶׂב)

- 野の灌木と同様、「草」も地における神のみこころを示す「神のことば」の象徴です。木と草はいずれも人の食べ物であることが、創世記1章29節に記されています。
- 1章30節の「(種のない)緑の草」は「モーセの教え(律法)」のことであり、それはキリストに導くための養育係のような食物で、初歩の教え(幼稚な教え)を意味します。しかし「種のできるすべての草」「種の入った実のあるすべての木」は「キリストの教え」を意味し、たとえています。

3. 地の状況 ⑤

(3) 雨が降る 「マータル」 (מַטַּר)

●野の灌木と野の草が地に生えるためには、「雨」(「マータール」מַטַּר)が不可欠であることを示唆しています。

【新改訳2017】申命記32章1～2節

- 1 天よ、耳を傾けよ。私は語ろう。地よ、聞け。私の口のことばを。
- 2 私のおしえは雨のように下り、私のことばは露のように滴る。

若草の上の小雨のように。青草の上の夕立のように。

●ここでの「雨」は、「若草」と「青草」にいのちを与えて生かす「**神の霊**」としてたとえられています。「雨」は「主のおしえ」(「トラー」תֹּרָה)、および、主の口から出ることば(「イムラー」דְּבַר יְהוָה)を生かす霊をたとえています。

3. 地の状況 ⑥

●ヨエル書2章23節、28節では、神の霊が「雨」にたとえられています。

【新改訳2017】

23 シオンの子らよ。あなたがたの神、主にあって、楽しみ喜べ。

主は、義のわざとして、**初めの雨**(「モーレ」 מֹרֵי)を与え、かつてのように、あなたがたに**大雨**(「ゲシエム」 גֶּשֶׁמַיִם)を降らせ、**初めの雨**と**後の雨**(「マルコーシュ」 מַלְכוֹשׁוֹ)を降らせてくださる。

28 その後、わたしはすべての人に**わたしの霊を注ぐ**。あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。

3. 地の状況 ⑦

【新改訳2017】ゼカリヤ書10章1節

主に雨を求めよ、後の雨の時に。主は稲光を造り、
大雨を人々に、野の草をすべての人に下さる。

- ① 「雨」 (「マータール」 אֶטֶם)
- ② 「後の雨」 (「マルコーシュ」 מַלְכוּשׁוֹ)
- ③ 「大雨」 (「ゲシエム」 גֶּשֶׁם)
- ④ 「野の草」 (「エーセヴ バサーデ」 אֶשְׁבַּח בְּשֶׁבַע)

● 雨と草は密接な関係にあります。それらは、**神の霊と神のことば**を啓示するたとえとなっています。このような**聖書の表象**に、**私たちは慣れる必要があります。**

3. 地の状況 ⑧

(4) 大地を耕す

●大地を「耕す」とはどういうことかを考える前に、大地は「地」にあります。「地」は、「天」つまり「神のみこころ」を映し出すところ。つまり「大地を耕す」とは、天における神のみこころを行うことを意味します。「耕す」(「アーヴァド」 אָרְבֵּד)とは、神に「仕える」こと、神を「礼拝する」ことと同義です。つまり「アーヴァド」は、人が祭司として神に仕えることを意味する祭司用語なのです。

●「大地」と、それを耕し、そこに仕える「人」が語呂合わせになっています。大地は「ハーアダーマー」(הָאָדָמָה)、人は「ハーアードーム」(הָאָדָם)と呼ばれます。「大地」と「人」は切り離すことのできない密接な関係を有しているのです。

今回のまとめ

- 今回は、二つのことを学びました。一つは神の名です。「神」は一般名詞ですが、「神である主」の「主」は私たちの救い(贖い)と深く関係する固有名詞です。人間が罪を犯す前から、この「主」が人を形造られるのです。「主」の名には贖いが前提とされています。
- もう一つは、「人」が形造られる前の「地の状況」です。そこには、神と人のかかわりの中で最も重要なものが、消極的に表現されています。
- 創世記1章の学びでもそうであったように、これから学ぶ創世記2章に書かれている多くが、たとえとして用いられています。これはイエシュアがたとえを用いて「御国の福音」を語ったように、神の知恵です。それゆえ、たましいではなく、霊の中で受け取る必要があるのです。